

かみきさべ 上私部遺跡 現地公開資料

2006年1月21日
 (財)大阪府文化財センター

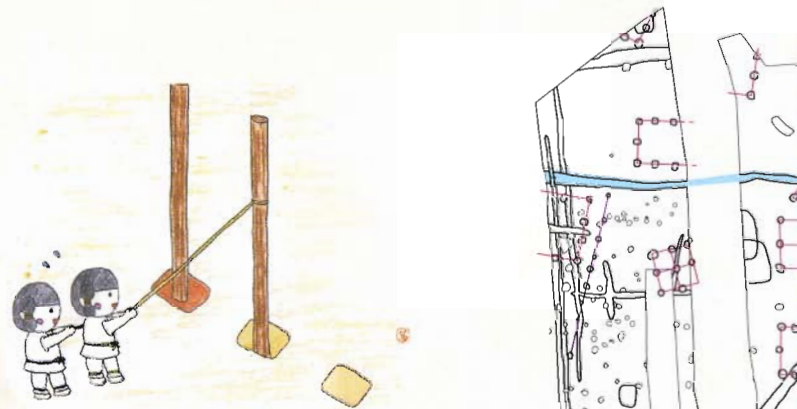
上私部遺跡は、第二京阪道路の建設に先立つ発掘調査で初めて発見された、古墳時代の大集落遺跡です。人々がこの地域に住みはじめたのは5世紀ころで、当初は数棟の^{たてあなしき}竪穴式住居で生活していました。ところが、6世紀になると集落内を溝で区画するようになり、大規模な掘立柱建物を規則正しく並べて建てる集落に発展したようです。『日本書紀』によりますと、^{にほんしょき}敏達天皇6年(577)に皇后の生活をまかなうための「私部」^{きさいべ}が設置されたことが記録されており、^{ちよつかつち}ヤマト王権の直轄地である「茨田屯倉」^{まんだのみやけ}も周辺に想定されています。上私部遺跡の集落は7世紀に衰退しますが、6世紀には大王と関係の深い有力な人々が暮らしていたと考えられます。



上私部遺跡で最大級の掘立柱建物です。どちらも、5×3間(約9×6m)の規模で、柱の太さは直径20～30cmを測ります。その大きさから、中心的な建物だったと考えています。①(左)は、古墳時代後期(6世紀後半)の建物で、掘立柱建物が密集した地区で見つかりました。②(右)は、古墳時代後期～飛鳥時代(6世紀末～7世紀初頭)の建物で、掘立柱建物柱が整然と並んだ溝で区画された方形の敷地内で見つかりました。



一列にならんだ柱穴です。溝や建物と併行することから、区画のための柵や塀などでしょう。写真のものは、柱の根元部分が良く残っていました。



現在調査中

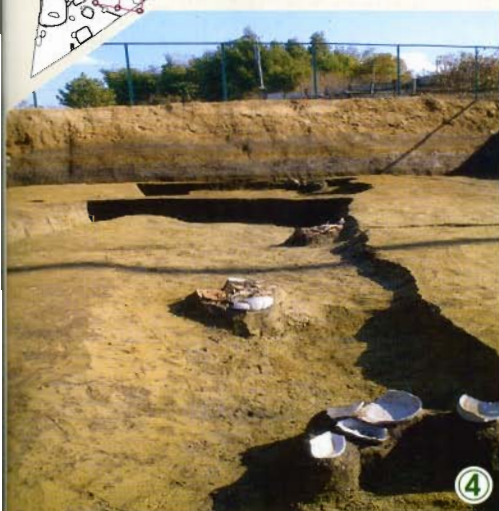
- 古墳時代の主要な溝
- 竪穴住居
- 掘立柱建物
- 柵・塀
- 竈



上私部遺跡平面図
(1:600)



古墳時代後期(6世紀後半)の竪穴住居です。四角く穴を掘り、4本の柱で屋根を支えていました。写真手前には、カマドと煙道が見えます。奥には、発掘していない竪穴住居が、四角く見えます。



方形にめぐっていたり、地形と合わない直線的な溝を多く発見しました。これらは、建物群などを区画するために掘られたと考えています。ここからは、土器がまとまって出土しました。



上私部遺跡から出土した古墳時代後期(6世紀)の土器。灰色が須恵器、赤っぽいのが土師器です。



古墳時代後期(6世紀)の竪穴住居に作られたカマドです。中からは、まきを燃やしたあとの炭と、煮炊きに使った土師器のカメが出土しました。この住居は一边約8mもあり、上私部遺跡で最大の規模を誇ります。



上私部遺跡周辺の遺跡

交野市にはさまざまな時代の遺跡が数多くあります。上私部遺跡のすぐ近くでも、はるか昔から人々が暮らしてきたあとが見つかっています。縄文時代には有名な神宮寺遺跡があり、弥生時代には私部南遺跡で集落が営まれます。交野高校の周辺では古墳時代前期（1700年ほど前）に交野車塚古墳群が作られます。また、有池遺跡では平安時代の後半から鎌倉時代にかけての水田や集落が見つかっています。

上私部遺跡と同じ6世紀ごろの遺跡もいくつかあります。JR河内磐船駅の周辺にある森遺跡は、鉄作りをおこなっていた遺跡として有名です。関西創価学園の付近では土器（須恵器）を焼いた窯（大谷窯・大谷北窯）が見つかっており、上私部遺跡でみられる土器とそっくりのものも出土しています。上私部遺跡で使われた土器は、この窯で焼かれ、運ばれていったのでしょう。また、南東にある竜王山の尾根筋には横穴式石室をもつ寺古墳群がみられます。なかでも3号墳は石室もよく残っており、今も立派な姿をみることができます。この古墳群のある尾根からは上私部遺跡がよく見えることから、村の代々の有力な人々が葬られたお墓だったのかもしれません。

今回の現地公開は第8回『緑立つ道』ハイキング・青山地区遺跡調査の現場見学会として実施するものです。

作成 (財)大阪府文化財センター
印刷・発行 国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所
西日本高速道路株式会社 枚方工事事務所

- 調査終了部分
- 古墳時代の主要な溝
- 竪穴住居
- 掘立柱建物
- 柵・堀
- 竈



順路

遺物展示

休憩所

受付

出入口

北の区画溝

西の区画溝

上私部遺跡平面図
(1:300)

建物13

建物12

建物11

建物10

建物9

建物8

建物7

建物6

建物4

建物5

建物3

建物2

建物1